

オープンウォーターで 国体・日本選手権大会 出場決定！

えはら 江原
なほ 奈穂
(豊秋)

御船高等学校2年

平成13年9月14日生。水泳をしていた姉の影響や喘息対策で小学1年生から初心者クラスで水泳を始める。得意な泳ぎは、自由形で400m、800mの長距離を専門としている。中学では、2年連続で九州大会出場という快挙を果たす。県高校総体では3位。400m、800mのそれぞれの部で九州総体に出場。今年7月に行われたオープンウォーターでは、準優勝。江原さんが新たに挑戦する“オープンウォーター”短期間で全国大会出場を決めた江原さんの、その決意と素顔に迫る—

オープンウォータースイミング (OWS)

海や川・湖といった自然の中で行われる長距離水泳競技です。水質、天候、潮汐、水生生物との接触、選手同士の接触など競技中は外部からの様々な影響を受けるため、危機管理も含め、競泳とは異なる技術や知識が必要になります。

7月1日、鹿児島県の阿久根市で行われた「阿久根オープンウォーター2018」で熊本県代表として出場した御船高校2年の江原奈穂さん(豊秋)が準優勝を勝ち取りました。

その結果から、9月12日、福岡県若狭町で開催される「第73回国民体育大会水泳競技大会」と同月23日、千葉県館山市で開催の「第94回日本選手権水泳競技大会」にオープンウォータースイミング(以降:「OWS」と記載)競技の部で出場が決まりました。これは、熊本県の女子で初となる快挙です。

「長距離」と「才能」

水泳との出会いは、小学校1年のとき、熊本NEO(荒木誠コーチ)のスイミングスクールに通い始めたことから始まった。

最初は、週に1回の練習も、小3のころには、毎日のように水泳に打ち込んだ。熊本NEOでは、4泳法を小学生で学び、中学校の成長期に合わせて、得意なものを見つけ、それを磨くことを実践している。

荒木コーチは、江原さんが中学に上がると、スプリントタイプではないことや、長く泳げる力を持っていることから長距離を専門にすることを勧めた。すると、400m、800mの部で、中体連2年連続九州大会に出場など、瞬く間に「長距離専門」としての才能を開花させた。県総体では高1で、800mで上位入賞、高2では、400m、800mで九州総体に出場するなど数々の結果を残したが、「納得いく泳ぎはできなかった」と語る江原さん。来年の高校総体では、標準記録を突破し、インターハイ出場を目指している。

「OWS」の強み

「OWS」との出会いは、昨年8月—。東稜高校でOWS(3km)の壮行会を行うことになり、荒木コーチが長距離が強い江原さんに「出てみないか」と



▲スタートの合図とともに一斉に海へ飛び込む参加者たち

話した。3kmという未知の距離を想像したとき、「(心の中では)絶対無理」と思ったが、「競泳長距離の力になるならば」と奮起し、出場する。結果は、男女10人中、断トツ1位だった。「意外と泳げた。そんなにきつくはなく、逆に長く泳げて楽しかった」と言葉をもらした。この結果を受け、県水泳協会から推薦をもらい、10月には高知県で開催される国内最終戦にエントリーした。しかし、OWSは海などの自然の中で行われる競技のため、台風の影響を受け中止となった。

初の公式戦で2位

今年の7月1日、鹿児島県阿久根市で行われたOWSの大会に参加した。阿久根で泳ぐ距離は5km。これまでで



▲海での戦いを制し、ゴールする江原さん

最長の距離だ。自分の可能性を知るため「初めての距離でワフワフしている」と意気込むが、公式戦の海で泳ぐことは、初めてのことだった。

スタートは陸から走り、海へと飛び込む。ビーチから100m先の沖を目指し、4つのブイでできている四角のコースを周回するが、沖に出るまでに波にさらわれたりとかなりの体力を使う。海の中では、常に来る波でまっすぐ泳ぐことが困難。荒木コーチに事前に教わった「波越え」を実践し、水の抵抗を減らすことで波への対処をした。

それでもやはり海は怖い。足元も見えず、順位も分からず、荒木コーチの指示も届かないほどの距離。さまざまなことが脳裏を巡ったが、とにかくがむしゃらに泳ぎ、ゴールテープを切った。結果は、現在日本ランキング1位の選手に続き、2位。初の公式戦で好成績を残した。



熊本NEO
代表取締役社長
兼御船高校水泳部コーチ
荒木 誠

(江原さんは)水泳を始めたときから、水泳への思いや姿勢は変わっていません。何事も真面目なところは、熊本NEOスクール生の見本になっています。これまでも課題をこなし、結果も残していますが、まだ欲が足りないと思います。

欲が出てきたときには、今よりももっと、強く速いスイマーになれる。

さらなる舞台へ

ここまで頑張れるのは理由が2つある。一つは、両親や荒木コーチの存在が、どんな時でも支え続けてくれたからだ。江原さんは「もっと結果を残して、恩返しをしたい」と語った。

もう一つは、何よりも「水泳が大好き」ということ。OWSでは、「自然の中で泳ぐことが気持ち良く、新鮮で楽しい」と話し、水泳の楽しさや面白さを実感している。

水泳は、「自分の一日の生活の流れであり、欠かせないもの」と語る。

今後のOWSでの国体と日本選手権大会の2大会を控えた江原さん。さらなる新境地へと、また新たな一歩を踏み出す—。